

令和7年度使用中学校用教科用図書調査報告書（選定案）

令和6年7月18日（木）

津市教科用図書調査研究委員会

令和7年度使用中学校用教科用図書調査報告書（選定案）

種 目	国語
教科書の名称	国語
発行者の番号・略称	38・光村
理 由	
4者の教科書見本について調査した結果、光村図書の「国語」が最も適切な教科書であると判断した。以下の項目はその主な理由である。	
1 各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習等、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 ・ 巻頭の「学習の見通しをもとう」では、学習者に「1年間でどんな学習をし、どんな力を身につけるのかを見通そう。」と促し、話す・聞く、書く、読むといった領域別に、分かりやすく示している。 ・ <読むこと><話す・聞くこと><書くこと>のそれぞれの分野において、同じような形式で学習の流れが示され、「学びのカギ」で学習のポイントが示されている。この学習の流れと「学びのカギ」との関連で課題を解決する力の育成が図られている。 ・ <読むこと><話す・聞くこと><書くこと>の学習活動の中に、対話的に学習が深められる活動（「話し合おう」「伝え合おう」など）が組み込まれている。 ・ 「思考の地図」は課題を解決したり、考えを深めたりする方法として、国語の学習のみならず、様々な場面で活用できるように提示されている。	
2 言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫 ・ <読むこと>においては、「学びへの扉」で学習の流れが示され、<話す・聞くこと><書くこと>においてもほぼ同様に学習の流れが提示されている。また、学習のポイントが「学びのカギ」で示されて学習する形になっており、言語能力や論理的能力が育成できるようになっている。 ・ <書くこと>においては、苦手な生徒に有効な支援と考えられる「言の葉ポケット」が用意されている。 ・ 巻末にある「語彙ブック」を利用することで言語能力を高めることができる。中でも、3系統に整理された「描写」「言動」「思考」の言葉の紹介は言語能力を高めることに有用である。	

3 情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫

- ・ <話す・聞くこと><書くこと>では、1年生「話の構成を工夫しよう」「項目を立てて書こう」2年生「魅力的な提案をしよう」「情報を整理して伝えよう」3年生「合意形成に向けて話し合おう」「考えを効果的に伝えよう」など、ICTを活用しながら、情報活用能力の育成を図る教材が配置されている。
- ・ 巻末の「ICT活用のヒント」で、ICTを活用すると効果的な場面がまとめられており、積極的に活用できるよう工夫されている。

4 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫

- ・ <読むこと><話す・聞くこと><書くこと>の各分野で学習の目標から振り返りまで学習の過程が明確に示されている。課題を解決する力をつけるための学習のポイントが「学びのカギ」として示されている。学習の見通しを立てるところから振り返りをするとところまで生徒にとって学習の流れが分かりやすい。
- ・ これまでの光村図書の教科書よりも、見通しを立てることや振り返りの部分において、レイアウト等で改善がなされており、生徒にとって、より分かりやすくなっている。
- ・ 巻頭の「主体的な学びのために」には、この教科書で見通しをもって学習できるように配慮されている。

5 生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫

- ・ 「学びのカギ」は教材の学習のポイントを示しているものではあるが、これからの生活の場では出会う様々な課題を国語の力を使って、解決していく力をつけるために提示されている。生活の場に活かせる能力を身につけることの有用性を自覚することで、自発的な学習につながると考えられる。
- ・ 教材に挿入されている資料や巻末の「国語の力試し」「書くことのミニレッスン」「二次元コード一覧」など一人一人の興味関心に合わせて活用できるものが用意されている。

6 内容の配列及び造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等

- ・ 文字が濃く太く読みやすい。
- ・ 全ての行に数字か「・」があり、分かりやすい。
- ・ 全ての単元でほぼ統一された形で学習の流れが分かるデザインになっている。
- ・ 全体の色調が落ち着いた。
- ・ 現在採用のものからグラフや印刷等の視認性が向上している。
- ・ 各分野の専門家による校閲がなされており、様々な状況にある生徒への配慮が伺える。

令和7年度使用中学校用教科用図書調査報告書（選定案）

種 目	国語 書写
教科書の名称	中学書写 一・二・三年
発行者の番号・略称	38・光村
理 由	
4者の教科書見本本について調査した結果、光村図書の「中学書写 一・二・三年」が最も適切な教科書であると判断した。以下の項目はその主な理由である。	
1 各課題に「学びのカギ」（P40等）として学習のポイントが示されていることで、生徒自身が自らの課題や目標を明確にできる。また、それぞれの課題が「考えよう→確かめよう→生かそう」の順にまとめられており、見通しを立てて学習することができ、学習の振り返りも生徒自身で行える。さらに、「生かそう」では、硬筆に関連させた学習もできるので、書写への理解と技術の向上が図られている。	
2 ICTを活用した学習活動として動画の内容が優れている。コラムにも二次元コードの一覧があることでまとめて視聴することができたり、右利き用左利き用両方の筆運びが示されたり、PDF資料も付属されたりしており、主体的な取組への工夫も図られている。また、メール文の書き方やプレゼンの資料作成、ロイロノートに近い形式の採用等（P117）、タブレット端末を用いた学習に直結した内容になっている。デジタル上の文字にも着目されており、タッチペンでの署名やデジタル付箋の活用例等（P116）、社会情勢と連携した学習を進めることができる。	
3 「全国文字マップ」（P90）、SDGsに関するコラム（P33）、「総合」と銘打った防災学習とのつながり（P98）等、教科等横断的な学習活動が工夫されている。	
4 1年生における最初の毛筆手本が原寸大で、名前まで手本として示されていることにより、全体のバランスをつかみやすい（P42）。他にも、原寸大の手本が多く収められている（P56、P60、P68）。	
5 別冊「書写ブック」が巻頭に取り外し可能な形式で付属しており、硬筆の学習が系統立ててまとめられていることに加え、書き込み式の教材も充実しているので、練習帳等の副教材を購入する必要がない上、毛筆と硬筆の関連も分かりやすく学べる。	
6 年賀はがきの実物が付属されていたり（P27）、新聞紙面を題材に書体の使い分けを考えさせていたりして（P94）、家庭生活と連携した学習ができるように工夫されている。	

- 7 巻末の「中学生のための漢字字典」(P119)は、人名漢字も収められており、かつ楷書行書共に記載されていることでどの学年でも活用でき、生徒の主体的な活動につなげやすい。また、名前の配置についての記載があり(P139)、視覚的に捉えやすくなっている。
- 8 P16等、行書の点画のつながりや省略等が部首別にまとまっており、字形の特徴をつかみやすく、汎用性も高いため、生徒の主体的な活動につなげることができる。
- 9 P7、P14等、書き順や部首が色分けで示されており、さらに色調が落ち着いているため、視覚的な支援が期待できる。

令和7年度使用中学校用教科用図書調査報告書（選定案）

種 目	社会（地理的分野）
教科書の名称	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土
発行者の番号・略称	46・帝国
理 由	
4者の教科書見本本について、調査した結果、帝国書院の「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」が最も適切な教科書であると判断した。以下の項目はその主な理由である。 1 各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫としては、学習を進める前に、「地理的分野を学ぶ意義」、「地理的な見方・考え方」について記載している（巻頭P7、P8）。そして章のねらい、節、本時ごとに問いが設定されており、段階的に学びを深めていくことができる構成となっている（P45、P48）。 また、具体的なテーマについて、自分の意見をまとめたり、他者と意見交換したりして学びを深めるコーナーが設けられている（アクティブ地理 P90、P91）。このようなことから、考える視点が分かりやすく、また生徒自身が見通しをもって学習を進めていけるようになっている。 2 言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫として、考えを整理する方法（巻頭P9）や地理的な学習に必要な技能を身につけるコラム（技能をみがく巻頭P6、P29）、学習内容に関連した事例を紹介するコラム（地理プラス巻頭P6、P87）が各所に記載されている。また、本時ごとに「確認しよう」「説明しよう」（P29）の課題や、章（P42）・節（P62、P63）の振り返りが設定されており、自分でまとめたり、まとめたことを他者に説明したりすることで言語能力や論理的思考力の育成を図ることができるようになっている。 3 情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫について、要所要所に二次元コードが記載されており、多様なコンテンツを利用することができる（巻頭P6）とともに、リンク先の資料の質が良い。「技能をみがく21 プレゼンテーション資料の作り方」（P293）では、ICTを用いた学習のまとめができるようになっている。 4 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫について、単元の導入として写真（写真で眺めるP92、P93）や地図（P167～P169）を読み取る活動を通して、単元全体の学習内容を見通すことができるように構成されている。また、学習の振り返りには、対話によって思考を広げる問いや学習活動が設定されている（P180、P181）。	

- 5 各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫について、未来に向けて「地球温暖化への対策（P156、P157）」「高潮や津波に備える水の都、大阪（P203）」「公害の教訓を伝える三重県四日市市（P223）」や、アクティブ地理「持続可能な観光について考えよう（P214、P215）」などは、身近なことから考える際に活用できる。
- 6 生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫として、写真（写真で眺める）や地図を各単元の導入に使用していること、また、「地図帳活用（P99）」や「地理プラス」、「未来に向けて」などにより、学習を深める工夫が見られる。
- 7 教材・資料等について、津市「林業従事者育成支援講座」（P210）、香良洲町「三角州」（P142）、志摩市「英虞湾」（P143）等、津市及び三重県に関する記述が多くある。
- 8 今日的課題への配慮について、防災・情報・技術・SDGsなどの取り扱いが多い（「アフリカの送金サービス」P87、「日本の農業の課題と新たな挑戦」「電子商取引の急増と買い物の変化」P161）。

令和7年度使用中学校用教科用図書調査報告書（選定案）

種 目	社会（歴史的分野）
教科書の名称	社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き
発行者の番号・略称	46・帝国
理 由	
9者の教科書見本本について、調査した結果、帝国書院の「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」が最も適切な教科書であると判断した。以下の項目はその主な理由である。 1 各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫として、学習を進める前に「歴史的な見方・考え方」、「歴史的分野を学ぶ意義」について記載している（巻頭P8、P1）。各章や節、本時ごとに問いや学習課題が設定されており、段階的に学びを深めていくことができる構成となっている（P15、P16）。さらに、具体的なテーマについて、自分の意見をまとめたり、他者と意見交換したりして学びを深めるコーナーが設けられている（アクティブ歴史 P 34、P76、P204、P248）。このようなことから、考える視点が分かりやすく、生徒自身が見通しをもって学習を進めていけるようになっている。 2 言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫として、考えを整理する方法（巻頭P9）、歴史的な見方・考え方を働かせる上で必要な基礎的・基本的な技能を身につけるコラム（技能をみがく巻頭P6）が記載されている。また、本時ごとに「確認しよう」「説明しよう」（P55）の課題や章ごとの振り返り（P159）が設定されており、自分でまとめたり、まとめたことを他者に説明したりすることで言語能力や論理的思考力の育成を図ることができる。 3 情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫として、各章に二次元コードが記載されており、タブレット端末で読み取ることによって項目ごとのワークシート、用語解説、白地図データ等、多様なコンテンツを利用することができる（巻頭P6）。 4 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫として、各時代の学習を始める前に、これから学習する時代はどのような時代なのか、古代から現代までの12の時代について、時代の特色をつかませるような構成になっている（タイムトラベル・対話P26、P27）。また、章ごとの学習の振り返りには、重要であると考えられる出来事を赤色や黄色のマーカーでなぞる課題や地理的な見方での振り返りの課題が設定され、さらに対話によって章の問いを考察し、考えを深める工夫もされている（P159）。	

- 5 生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫として、各章のはじめにある挿絵や写真、「タイムトラベル・対話」(P276、P277)、「歴史を探ろう」(P132、P133)、「歴史プラス+」(P175)等、学習を深める工夫が見られる。
- 6 他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫として、「未来に向けて」(P174、P175)のコラムで情報・技術・人権など他の学習との関連が記載されている。また、「世界とのつながりを考えよう」(P110、P111)のページでは、日本史と世界史のつながりを理解しやすい工夫が見られる。
- 7 今日的課題への配慮について、人権学習に関する記述が詳細に記載されており、正確に理解しやすい(「未来に向けて」P137、P235「アクティブ歴史」P248、P249)。

令和7年度使用中学校用教科用図書調査報告書（選定案）

種 目	社会（公民的分野）
教科書の名称	社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して
発行者の番号・略称	46・帝国
理 由	
6者の教科書見本本について、調査した結果、帝国書院の「社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して」が最も適切な教科書であると判断した。以下の項目はその主な理由である。 - 各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫として、学習を進める前に、公民的分野での「現代社会の見方・考え方」、「公民的分野を学ぶ意義」について記載している（巻頭P8）。その上で、各章の学習に入る前に生徒の興味・関心を高める導入のページ（P30～P32）が用意され、各章や節、本時ごとに課題（P32）が設定されており、段階的に探求していく仕組みになっている。さらに振り返りでは、ワークシートを使って各節の学習のまとめを行うとともに、対話を通して章の問いの答えをまとめる設定（P70、P71）になっている。また、具体的なテーマを設定して、協働的に学ぶことができる「アクティブ公民」（巻頭P6、P42、P130）や単元ごとに「対話」（P48、P50）の課題が設けられており、思考を広げる工夫が見られる。 - 言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫として、考えを整理する方法（巻頭P9）、学習に必要な技能を習得するコラム（技能をみがく巻頭P6）が記載されている。また、本時ごとに「確認しよう」「説明しよう」（P137）の課題や章ごとの振り返り（P174）が設定されており、自分でまとめたり、まとめたことを他者に説明したりすることで言語能力や論理的思考力の育成を図ることができる。さらに、第5部（P215）では、自ら課題を設定して探究学習を行い、レポートにまとめる手順等が記載されている。 - 情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫として、各章・節に二次元コードが掲載されており、タブレット端末で読み取ることで項目ごとのワークシート、用語解説、統計資料等、多様なコンテンツを利用することができる（巻頭P6）。 - 各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫として、アクティブ公民「自分のまちの課題を解決する予算案を提案しよう」（P108、P109）、「赤字バス路線に税金を使うべきか？」（P166、P167）、未来に向けて「地域の活性化と持続可能なまちづくり」（P113）、「若者の政治参加を促そう」（P114）等、地域と地方自治を考える際に活用できる。	

- 5 生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫として、章のはじめにある「学習の前に」の導入や、18歳に向けて習得しておきたい実践的な知識について学ぶ「18歳への準備」(P84、P128、P154)、未来の社会をつくる取組を知る「未来に向けて」(P73、P178、P179)、実社会の動きや新しい事例を知る「公民プラス+」(P149、P195)、「アクティブ公民」(P120、P130、P144)等、学習を深める工夫が見られる。
- 6 教材・資料等の分量について、各章・節にあるデジタルコンテンツの内容が豊富である。また、教科書に使われている学習内容が現代的な内容(P6、P148)を含めて詳細に記載されており、図や写真等が明瞭で見やすい。
- 7 今日的課題への配慮について、人権学習に関する記述が詳細に記載されている(「教科書を受けとる中学生」P38、「未来に向けて」P52、P53、「公民プラス+」P49)。

令和7年度使用中学校用教科用図書調査報告書（選定案）

種 目	社会 地図
教科書の名称	中学校社会科地図
発行者の番号・略称	46・帝国
理 由	
2 者の地図帳見本本について、調査した結果、帝国書院の「中学校社会科地図」が最も適切な地図帳であると判断した。以下の項目はその主な理由である。 1 各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習等、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫として、地理・歴史・公民のすべての分野にかかわる問いが、156問（「地図で発見」（P6④、P117、P159））設定されており、学習を深めることができる。 2 言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫として、「地図で発見」の問いに、説明をもとめる設問が用意されている（P72、P158）。 3 情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫について、各所に二次元コードが掲載されており、多様なコンテンツを利用することができる（P4）。 4 生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫として、「地図で発見」の問いや「大陸から見た日本」（P35、P36）等は、新しい気づきや学習を深めることにつながる工夫がある。 5 他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫について、歴史的な出来事等が地図中に記載されている（P93、P94）。また、ヨーロッパ州の国々の変遷（P49）が分かりやすく表示されており、歴史的分野の学習においても地図帳を活用できる。 6 内容の配列及び造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮について、土地の高低や土地利用の色分けが分かりやすく、視覚的に地形がイメージできる（P103、P104）。また、日本の各地方の資料のページには、自然・降水量・人口分布・農業・工業・交通をテーマとした内容が1ページ（P115）にまとめられており、その地方の特色を関連付けて考察することができる。さらに、すべての地方の資料が同じテーマで示されていることから、地方と地方の特色を比較して考察することもしやすくなっている。 7 今日的課題への配慮について、災害・防災・環境・SDGs（P8～P14、P159～P162）等、今日的課題の取り扱いが多い。	

令和7年度使用中学校用教科用図書調査報告書（選定案）

種 目	数学
教科書の名称	未来へひろがる数学
発行者の番号・略称	61・啓林館
理 由	
7者の教科書見本本について、調査した結果、啓林館の「未来へひろがる数学」が最も適切な教科書であると判断した。以下の項目はその主な理由である。	
1 数学的な見方・考え方を働かせた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 啓林館は見方・考え方を「問題発見」「問題解決」に区別して明示し、下線で教科書の記述と対応させており、抽象化された見方・考え方と具体的な内容との関係が把握しやすい。また、考えたことを発信したり、他者とともに理解を深めたりする場面が「説明しよう」「話し合おう」「まとめよう」と明示されているため、対話的な場面を設ける際の目安となる。さらに、各章・節の導入「学習のとびら」では身の回りの題材を取り上げ、場面理解を促すデジタルコンテンツと言語活動のコーナーを配置し、興味・関心を持って学習に向かうことができるようにしている。他の発行者においても、見方・考え方を働かせる場面を登場人物の対話で示し、「深い学び」のページでそれらの定着を図ったり、思考力や表現力を育む「活用の問題」を章末に配置したりすることで、主体的・対話的で深い学びを促しているものがあるが、授業の中で働かせた見方・考え方が自然な流れで繰り返されている啓林館がより良いと考える。	
2 ICTを活用した学習活動の充実及び、個別最適な学習に向けた工夫 啓林館の二次元コードは質・量ともに充実しており、大部分のページに配置されている（3学年合計1384個）。また、教科書に記載されているすべての例、例題及び章末問題（学びを身につけよう）、巻末の問題（学びをふりかえろう、力をつけよう）に解説動画があるとともに、単元中に設けられている補充問題や章末問題（学びをたしかめよう）にも解説があるなど個別最適な学習に活用しやすい。他の発行者においても、啓林館よりも多くの二次元コードを配置し（東京書籍1752個）、動画による理解促進や関心・意欲を高める工夫がなされているものがある。しかし、例題や問題の解説動画がこれだけ充実しているのは啓林館のみである。タブレット端末で解説動画を活用すれば授業での答え合わせの時間が削減されるだけでなく、学習内容の学び直しなど学習の調整がしやすくなり、粘り強く取り組むことにもつながる。また、不登校生徒等が自宅や別室で学ぶ際の助けにもなることから啓林館がより良いと考える。	
3 その他 啓林館は補充問題やまとめの問題も充実している。平易なものから入試問題のやや難しいものまでの問題が十分に記載されているので、副読本を購入せずとも、教科書を中心に学習し、必要に応じてデジタル教材等を活用すれば十分な演習量を確保できる。	

令和7年度使用中学校用教科用図書調査報告書（選定案）

種 目	理 科
教科書の名称	未来へひろがるサイエンス
発行者の番号・略称	61・啓林館
理 由	
5者の教科書見本について調査した結果、啓林館の「未来へひろがるサイエンス」が最も適切な教科書であると判断した。以下の項目はその主な理由である。	
1 探究により学習を深める流れが明確である。「探Q実験」や「探Qシート」、巻末の「みんなで探Qクラブ」等、重点的に探究の学習に取り組むようになっており、主体的・対話的で深い学びにつなげることができる。	
2 各単元の多くのページに二次元コードがあり、解説動画や図等を読み込んで活用することができたり、「ICTでトライ！」という画像で操作できるコンテンツがあったりして、タブレット端末を使った授業展開が容易になる工夫がされている。また、タブレット端末の持ち帰りによる家庭学習等の自主学習にもつなげることができるように工夫がされている。	
3 3年生の「学ぶ前にトライ」(P3)、「学んだ後にリトライ」(P39)の流れを活用することで、自分の考えの変容を確認することができ、どこまで分かったのかを明らかにして見通しをもって学習に取り組むこともできる。	
4 2年生の「お料理ラボ」(P159)、3年生の「部活ラボ」(P195)、「Action」(P185)等、生徒たちが、生活とのつながりを実感でき、興味関心をもちやすい内容になっている。また、3年生の「探Qのたね」(P225)は、実際に試してみたいと思える課題であるといったように、家庭や地域での学びにつなげることができる。	
5 1年生コラムの「社会科と関連」(P96)や、2年生の「物質の表し方」(P161)では、二次元コードでさらに調べることができるといったように、他教科との関連を図った教科等横断的な学習の充実につなげる工夫がなされている。	
6 教科書内に登場する生徒のキャラクターの見た目や服装等、多文化共生や性の多様性、人権教育の観点からの配慮がなされていることで、様々な生徒が安心して学べる環境づくりにつなげることができる。	

7 自然災害を扱ったページでは、災害を様々な科学的視点からとらえることで、単に災害が怖いものではなく「知ってどう防ぐのか」「どんなことを考えて何を準備するのか」など、生徒自らが考えて生活を改善したり、不測の事態に備えたりしやすい内容になっている。

令和7年度使用中学校用教科用図書調査報告書（選定案）

種 目	音楽（一般）
教科書の名称	中学生の音楽
発行者の番号・略称	27・教芸
理 由	
2者の教科書見本本について調査した結果、教育芸術社の「中学生の音楽」が最も適切な教科書であると判断した。以下の項目はその主な理由である。 1 学習内容について、表示の仕方が学習評価の観点と関連付けられており、生徒が学習に見通しをもち、段階的に身につけられる学力等が分かりやすい。また、各ページに、音楽的な見方・考え方を働かせて学習するための考えたいポイントを分かりやすく例示しており、めあてとともに、主体的・対話的で深い学びにつなげやすく工夫されている。 2 主要教材を含め、目次において、順に見やすく配置されており、何を学習するのかが分かりやすく工夫されている。また、共通教材においては、学年配列が発達段階等を考慮した構成になっていると考えられる。 3 創作の題材では、1年生から段階的に発展していくよう工夫がされており、個人での活動及びグループ活動等、主体的・対話的で深い学びにつなげながら活動ができるよう考慮されている。 4 1年生用の教科書では、二次元コードが44箇所掲載されており、それらを4つのカテゴリーに分けて、基礎的な内容から発展的な内容まで、学習の状況と照らし合わせながら、タブレット端末等で取り組みやすいように工夫がされている。 5 生活や社会の中にある音等が各学年で特集されており、より音や音楽を身近に感じ、音楽の効果的な使われ方等を対話的に考える場面として使うことができる。 6 すべての字体がユニバーサルデザインフォントで構成されており、細かなところまで見やすさや読みやすさに配慮されている（1年生「赤とんぼ」の歌詞参照）。また、配色にもユニバーサルデザインの視点で配慮されている。さらに、各ページ左端に視覚的支援の工夫がされており、合理的配慮の観点が感じられる。 7 読み物教材として、著作権を扱った内容が1年生の段階で掲載されており、取り扱いたい学年の配慮、文章とイラストのバランスがとても分かりやすく構成されており、発達段階を考慮しながら取り組むことができる。	

令和7年度使用中学校用教科用図書調査報告書（選定案）

種 目	音楽（器楽合奏）
教科書の名称	中学生の器楽
発行者の番号・略称	27・教芸
理 由	
2者の教科書見本本について調査した結果、教育芸術社の「中学生の器楽」が最も適切な教科書であると判断した。以下の項目はその主な理由である。	
1 巻頭の目次に続き、学習内容について丁寧に表示されている。また、その表示と学習評価の観点が視覚的にも分かりやすく関連付けられているため、学習に見通しをもち、身につけられる学力等が理解しやすく工夫されている。	
2 「アンサンブルセミナー」として、音楽的な見方・考え方を働かせて学習するためのポイントが例示されており、めあてと関連付けて取り組めるよう工夫がされている。個人としての活動やグループ活動等として広く扱いやすく考慮されている。	
3 記載されている楽器の種類が多く、生徒の興味関心が高まりやすい。また、各楽器の奏法の仕方等の説明においては、文章と写真のバランスが良く、正しい姿勢が分かりやすくなっているといったように、細かな工夫がされている。	
4 アルトリコーダーやギターの演奏において、楽譜の配置の仕方（ソプラノリコーダーとの関連）や指の押さえ方等が、学習者の視点で見やすく、分かりやすくなっており、工夫がされている。	
5 二次元コードが40箇所記載されており、様々な活動が考慮されている。また、巻末にある曲集においては、それぞれの伴奏も記載されており、個別練習からグループ練習等、広がりをもった活動につなげやすく配慮されている。	
6 すべての字体はユニバーサルデザインフォントが使用されており、細かなところまで見やすさに配慮がされている。また、文章、写真、イラスト等のバランスが考えられており、分かりやすさや見やすさが丁寧に考慮されている。	

令和7年度使用中学校用教科用図書調査報告書（選定案）

種 目	美 術
教科書の名称	美術1 美術1 資料 つくってみよう見てみよう 美術2・3
発行者の番号・略称	38・光村
理 由	
3者の教科書見本本について調査した結果、光村図書の「美術」が最も適切な教科書であると判断した。以下の項目は、その主な理由である。 1 小学校での「図画工作」から、中学校での「美術」へと学びを深めていく上で、特に美術1の教科書巻頭の内容は重要である。光村図書の教科書は、巻頭部分で三重県出身の写真家、浅田政志さんを起用し、デジタル映像が身の回りに溢れている現代の子どもたちにとって身近なデジタル写真を入り口としながら、「うつくしい」を探してみようという投げかけている。新鮮な気持ちで「美術」という教科や、中学校生活に向かうことのできる導入となっている。 2 参考作品として掲載されている生徒作品について、単に作品の写真を掲載するだけでなく、作者の写真と作者の言葉が、『みんなの工夫』として一緒に掲載されている。そのことで、同世代の仲間の多様な感じ方や表し方と出会うことができ、自分自身の感じ方や、自分とは違う他者の感じ方を肯定的に捉えられるように工夫されている。これは「美術」における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて特に有効である。 3 制作に必要な知識や技法についての記述部分が、『資料 つくってみよう見てみよう』に別冊としてまとめられていることは、他者にはない工夫である。「美術」においては、限られた授業時間を有効に使うために、学習内容・分野を効果的に配列する工夫が必要である。必ずしも教科書配列どおりには進まない「美術」のなかで、必要な知識技能に関わる内容が別冊としてあることは大変使い勝手が良い。 4 美術の教科書は鑑賞資料として使うことも多いが、この教科書にはデジタルコンテンツとの連動や、江戸期の日本美術の作品は艶消しの和紙に近い紙を採用するといったように、歴史的にも重要な美術作品とより臨場感をもって出会える仕掛けが工夫されている。 5 SDGsや多文化共生社会の実現に向けた視点を豊富に盛り込み、美術の社会的役割や価値を実感できる内容になっている。	

- 7 ユニバーサルフォントを使用したり、穏やかな配色で構成したり、色覚特性に適応するよう工夫されたデザインであり、特別な支援を要する生徒にも配慮されている。
- 8 「共生」「性の多様性」「心の健康」「SDGs」「防災」「交通安全」「ネットリテラシー」「アレルギー」等の今日的課題への対応が豊富にあげられている。
- 9 学習の定着を図る章末の問題等はデジタルコンテンツにまとめられ、教科書の章末は資料のみとなり、整理されて見やすくなっている。

令和7年度使用中学校用教科用図書調査報告書（選定案）

種 目	保健体育
教科書の名称	新しい保健体育
発行者の番号・略称	2・東書
理 由	
4者の教科書見本本について調査した結果、東京書籍の「新しい保健体育」が最も適切な教科書であると判断した。以下の項目はその主な理由である。 1 学習指導要領の趣旨に沿っており適正で、小学校での既習内容も記載され、学習の連続性、系統性が分かりやすく示されている。 2 毎ページ冒頭の「学習課題」で問題提起があり、「課題の解決」で知識及び技能を獲得し、「活用する」で学習した内容をさらに深め、「広げる」で実生活に基づく応用力を養う展開になっており、学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫がされている。 3 毎ページに「活用する」「広げる」という学習活動があり、資料を読み取る課題や、自分の生活とリンクさせる課題があり、さらに調べたり、身につけた知識及び技能や学習した内容を活用したりできる工夫がされている。 4 二次元コードを読み取って、関連するデジタルコンテンツにアクセスできるようになっており、「動画」「シミュレーション」「思考ツール」「資料・図鑑」といったように、その内容も大変充実している。また、家庭学習で活用できるデジタルコンテンツも多く、授業での話し合い活動や探求的学習の時間を多くとることができる。 5 カリキュラムマネジメントも意識され、教科内における他単元と関連する学習内容や、他教科と関連する学習内容が専用マークとともに示してある。また、関連する他教科のデジタル教科書のページも二次元コードからアクセスして閲覧できる。 6 学年ごとに学習内容がよく整理されており、授業ごとのまとまりを見開き構成で左側に本文、右側に資料、二次元コードは右下と統一されたレイアウトで学びやすい。資料は図・グラフ・写真・読み物等の資料が随所に配列されているため学習内容を視覚的に捉えることができ、資料活用がスムーズにできるよう工夫されている。また、デジタルコンテンツが充実しているため、必要最低限の資料でまとめられているため視覚的に見やすい。1単位時間当たりの学習内容としても適切である。章末の資料や巻末のスキルブックも充実している。	

令和7年度使用中学校用教科用図書調査報告書（選定案）

種 目	技術・家庭（技術分野）
教科書の名称	新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology
発行者の番号・略称	2・東書
理 由	
3者の教科書見本本について、調査した結果、東書の「新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology」が最も適切な教科書であると判断した。以下の項目はその主な理由である。 1 巻頭のガイダンス等の中で、問題解決のプロセス、思考ツールの活用、まとめと発表の仕方等が技術分野の学習方法として記載されるとともに、技術の見方・考え方を働かせ、ものづくり等の技術に関する実践的・体験的な活動を通した、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫がされている。また、「やってみよう」、「考えてみよう」、「調べてみよう」の活動や「まとめよう」といった学習課題が数多く用意されており生徒が取り組みやすく、主体的・対話的で深い学びにつながる工夫がされている。 2 基本ページの「振り返ろう」、章末の「これからの〇〇の技術について考えよう」や「学習のまとめ」に記述でまとめる問題が多く取り上げられている。また、デジタル教材の中にもワークシートが各分野の各単元に用意されており、自分の考えをまとめたり、深く内容を考えたりするのに役立つ教材となっている。 3 インターネットを活用して効果的に学習を進めるためのデジタルコンテンツの中に、動画やワークシート、シンキングツールといった8種類のコンテンツがあり、直接書き込んだり、活用したりすることができる機能がついている。ICTを活用した学習活動の充実につながりやすい工夫がされている。 4 基本のページでは目標と学習課題が示されており、最後にまとめてみようの項目があり学習の見通し、振り返りがしやすい。また、二次元コードからアクセスできるデジタル教材の中に「TECH Lab」という製作の際に活用できる各作業の解説付きの短時間動画が数多く収録されており、作業の振り返りや予習がしやすい。 5 各編のはじめに、「技術の見方・考え方」「技術の最適化」を考える構成になっており、全領域の学習に対する興味関心を高めて学習に入ることができるように工夫されている。	

- 6 「他教科とのつながり」の記載があり、「リンク」「他教科」「小学校」マークを用いて、教科や校種を超えた学習活動ができるように工夫されている。
- 7 二次元コードからアクセスできるデジタルコンテンツにダークモードが用意されており、目の負担軽減や白色が苦手な視覚過敏の生徒に対しても配慮されている。
- 8 3者を比較した結果、東書の教科書には、生徒の学びや主体的な学習につながる多くの情報が盛り込まれている。また、デジタル教材がとても充実しており、予習・復習どちらにも活用しやすいコンテンツがしっかりと準備されている。

令和7年度使用中学校用教科用図書調査報告書（選定案）

種 目	技術・家庭（家庭分野）
教科書の名称	新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して
発行者の番号・略称	2・東書
理 由	
3者の教科書見本本について調査した結果、東京書籍の「新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して」が最も適切な教科書であると判断した。以下の項目はその主な理由である。 1 巻頭のガイダンス及び各編の導入で、随所に学習課題の提示があり、生徒が主体的に調べたり、協働的に学習できたりする内容がまとめられており、これからの学習に臨む姿勢が持ちやすい工夫が見られる。 2 多くのページに、自ら考えやすいような投げかけがキャラクターの吹き出しで記載されていることで、思考を深める手がかりとすることができるような工夫がされている。 3 重要単語や難解な単語には注釈が丁寧につけられており、言語能力の育成につながる工夫がされている。 4 全てのページでICTを活用して効果的に学習を進めるための二次元コードを読み込むことができるようになっており、動画やWebページ、シミュレーションで内容を確認し、生徒が自ら課題に取り組むことができるようになっている。また、これらのデジタルコンテンツには、鮮明なイラストや写真、図が記載され、授業以外の時間にも教科書を開いてみたいと生徒に感じさせるような工夫がされている。 5 単元の終わりに「学習のまとめ」が記載され、導入から復習までの単元の流れが生徒にとって分かりやすいような工夫がされている。 6 それぞれの編ごとに学習内容と関連する内容が記載されており、教科等横断的に学習を進めることができるような工夫がされている。	

令和7年度使用中学校用教科用図書調査報告書（選定案）

種 目	英語
教科書の名称	NEW HORIZON English Course
発行者の番号・略称	2・東書
理 由	
6者の教科書見本を調査した結果、東京書籍の「NEW HORIZON English Course」が最も適切な教科書であると判断した。以下の項目はその主な理由である。 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習内容や言語活動を充実させるための工夫として、実際のコミュニケーション場面を意識して教材を提示している（1年生P69、P86 2年生P12、P30、P60 3年生P20）。また、UnitやStage Activityにおいては、常に目的・場面・状況を意識し、日常生活の場に則した設定を行っている。とりわけ3年生Let's Have a Mini Debate（P88）では、「やりとり」「即興性」を意識し、他者の考えを踏まえて自分の考えを深め、伝える活動を取り入れている。 2 言語能力や論理的思考の育成を図る工夫として、Unit Activy ではStepごとに、①「情報を整理する」②「自分の考えを伝え合う」③「他者の考えを踏まえ自分の考えをまとめる」という順で構成しており、全ての単元に設定してある（2年生P56）。また、技能統合型の構成（2年生P22、P23 読むこと・話すこと、P40、P41 聞くこと・書くこと・話すこと）の仕組みを取り入れ、概要を示しながら順序構成することにより、多様な生徒一人一人の興味・関心を引く工夫を行っている。 3 他の教科等との関連性を図った教科等横断型の学習活動を充実するための工夫としては、題材に水、エネルギー問題、絶滅危惧種といった環境問題（3年生P92）や、小学校4年生国語科の「ごんぎつね」（1年生P126）、社会科の世界遺産（3年生Unit7）や、ユニバーサルデザイン（2年生Unit5）等、教科の関連を図る工夫を多くの場面で行っている。 4 教材・資料等の分量については題材に沿った実際の写真を多く用いており、様々な国の文化や景色を具体的にイメージしながら学ぶことができる。また、登場人物においては他国の中学生が登場し、Real Life English では実際の人物のインタビュー内容をモデルとして採用している（2年生P37）。加えて、英語で聞いたり読んだりしたことをグラフや表を活用して理解を深めるサポートをしている（3年生P27、P39）。	

- 5 今日's課題の配慮、とりわけ小中接続については、Unit1 から5にかけて音と文字の復習を Sounds and Letters で丁寧に取り扱っている。また、反復練習と振り返りを繰り返すことによって、英語力の定着を図る構成となっており、小学校4年間で学習した内容を積み重ねることができるようになっている。加えて、1年生 Unit1 では、自己紹介の場面を設定することで、Be 動詞と一般動詞の両方が必然的に配置される状況を創出し、小学校の学習内容を踏まえて初期段階から実際のコミュニケーションに則した学習を行う配慮を行っている。

令和7年度使用中学校用教科用図書調査報告書（選定案）

種 目	特別の教科 道徳
教科書の名称	あすを生きる
発行者の番号・略称	1 1 6 ・ 日 文
理 由	
7 者の教科書見本本について調査した結果、日本文教出版「あすを生きる」の教科書が、最も適切な教科書であると判断した。以下の項目はその主な理由である。 1 「あすを生きる」には、生徒が学校や家庭で見聞きする日常的な問題が多く取り扱われ、生徒が自分自身の考えを深めたり、他者と話し合ったりしながら問題解決的な学習や体験的な学習を行うことができる。また、学校の年間行事や生徒の発達段階を踏まえて、適切な時期に教材を配置するといった工夫がなされている。 2 キャリア教育の視点から、1年生では新しい自分とであう、2年生では人との関係をみつめる、3年生ではよりよい人生をひらくといったように、3年間の学習に系統性、発展性をもたせている。 3 生徒がよりよい社会を創造していけるように、「自立と共生」、「環境と未来」という2つのテーマでユニット「よりよい社会を考える」を構成し、生徒が集中的かつ多面的・多角的に考えられるように工夫されている。 4 教科書本冊には同じ学習順で記載される「道徳ノート」が別冊で付いており、罫線がなく、文章に限らない、生徒の自由な表現に対応している。今回の改訂ですべての教材で発問欄が空欄となり、生徒の実態や授業スタイルに応じて、発問を自由かつ柔軟に設定できるようになっている。また、すべての教材で自分への振り返りの欄の下に自由欄が設定され、自分の振り返りを言語化する、保護者や教員がコメントを記入するなど、活用の幅が広がっている。授業で使った資料等を貼り付けることでポートフォリオとして活用することもできる。 5 いじめ問題については、いじめの認知件数等の分析により、「いじめと向き合う」教材が1年生に3か所、2・3年生に2か所、長期休み明けの時期に複数配置されている。また、いじめを直接的に扱った教材と違う視点から間接的に考える教材も記載されており、生徒が主体的に考えられるように工夫されている。「視野を広げて」は、知識を深めるコラムとスキルを身につけるコラムで構成されている。 6 全教材・全コラムにデジタルコンテンツがあり、学習支援機能も充実しているので、家庭でも自主学習できるように配慮されている。	